



## 旧串良町役場

昔

昭和52年頃



今



串良町役場は昭和27年に県内初の鉄筋庁舎として、県道73号線沿いに完成しました。その後、昭和54年に増築等を行いました。施設老朽化や耐震上の問題で施設の一部は、平成21年に解体されました。残った施設は、その後鹿屋市文化財センターとなり、跡地は広い駐車場として、地元のイベント会場などに活用されています。



鹿屋にやってきた30を超える動物たちの中でも一番の人気者は、はるばるタイからやってきたゾウの「タイ子ちゃん」。かわい目の先を、投げたエサを長い鼻の先にグルッと巻いて口に運ぶ器用さ

「鹿屋に動物園現る」のニュースは瞬く間に大隅半島に広まり、大隅はもとより、遠くは宮崎からも連日多くの見物客が押し寄せ、鹿屋市始まって以来の賑わいが生まれました。見物客があまりに多かつたため、運営本部は当初予定していた開催日程を1日延長し、移動動物園は10月3日まで計5日間開催されました。

昭和26年9月29日、鹿屋の街に移動動物園がやってきました。これは、鹿屋市誕生10周年を記念して、大隅の子どもたちに貴重な体験や学ぶ機会を提供したいと、鹿児島市・新聞社や鴨池動物園（現在の平川動物公園）など、関係機関が協力して実施されたイベント。

## 人気をさらった移動動物園

## カノヤタイムトラベル

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！



ゾウの「タイ子ちゃん」の背中にまたがる子どもたち。周りを大勢の人が取り囲む。

や、子どもを背中に乗せて喜ばせる姿は見物客を大いに盛り上げました。移動動物園は明るい話題だけでなく、街にも経済効果を与えました。動物園の来園に併せて商店街へ買い物に行く人が増え、お店は連日超満員のお客さんの対応で大繁盛。バス会社は絶えない大勢の利用客に嬉しい悲鳴を上げるなど、移動動物園の試みは鹿屋経済にも大きな影響を与えました。